

令和3年度

社会福祉法人 伊賀市社会事業協会 事業報告

1 法人について

様々な変異を繰り返す新型コロナウイルスは、発生が確認されて2年が経過した現在もなお、収束の兆しが見えない。各施設におけるコロナ禍での各種福祉サービスの提供においては、手洗い、うがい、換気、消毒、検温等、保健所の指示や国のガイドラインを遵守しながら感染対策を徹底した。コロナ禍における行事等のイベントは、中止又は規模縮小や変更を余儀なくされており、子どもたちや高齢者、障害者等福祉サービスを提供する皆様に、コロナ前のような多くのゆしみが感じられる、快適で安心なサービスが提供できているのか日々苦悶している。

コロナ禍も第6波を迎え、全国的にも保育施設では感染リスクと隣り合わせの毎日が続いており、当法人の各保育現場では子どもたちや保護者の皆様の生活を支えようと全力を傾注して対応している。先が見通せない状況の中で、子どもたちの育ちや子育て等の社会的基盤を保持することへの使命感が保育現場の唯一の推進力になっているが、3密や接触を避けることが難しい保育現場のコロナ対策には限界を感じざるを得ないのが正直な実感である。保育施設を含めて法人内の各施設の職員は、感染拡大に対する精神的圧迫や緊張感の中で、感染防止対策への不安や疑問を抱えながら、これまでにないストレスの中で業務を遂行している現状がある。

現在の日本国内においては、各業界とも人手不足の解消対策のために賃金水準の引き上げが行なわれ、これが人件費率を上昇させる原因となっている。また、多くの製造原料を海外からの輸入に頼っていることもあり、このまま円安が続けば原材料の高騰に影響し、商品を値上げせざるを得なくなる。もともと化石燃料価格が高騰しているうえに、ロシアのウクライナ侵略も引き金となり、エネルギー事情が混迷し輸送コストも上昇している。これら値上げ急増の3大要因が重なり、年度末から次年度にかけて物価の高騰が危惧される事態となっている。農産物を中心とした生活物価も上昇しており、我々の生活や事業遂行に大きな影響を及ぼすことが考えられる。コロナ禍や物価の高騰への対応等、職員一人ひとりがより一層知見や見識を深め、今後、想定を超える事態にもその都度臨機応変に対応できるよう備えていかなければならない。

(1) 人材育成と確保

施設種別と雇用形態別職員数

※ 期間を限定して採用した短期間雇用者は含まない

施設種別	正規職員	嘱託職員	臨時職員	合計
保育施設	135名	16名	124名	275名
学童施設	3名	2名	53名	58名
高齢・障害等介護施設	86名	17名	28名	131名
その他施設	3名	6名	1名	10名
合計	227名	41名	206名	474名

年度内採用者数	
正規職員	18名
非正規職員	44名
合計	62名

年度内退職者数	
正規職員	18名
非正規職員	29名
合計	47名

平均勤続年数	
男性	11.0年
女性	10.8年
合計	10.8年

障害者雇用数	
身体障害	6名
知的障害	3名
合計	9名

福祉職希望者の減少と離職者の増加等人材確保を取り巻く環境は、年々厳しい状況である。特に、保育職や介護職の確保については、ここ数年難しい状況に変わりはないが、SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)や協会内職員の人的資源を有効活用する等、考えられる様々な方策を駆使しながら人材確保に努めた。

(2) 職場における各種ハラスメント対策と職場環境づくりについて

・職場におけるハラスメント防止に関する内規の制定

これまでも就業規則におけるハラスメント防止に関する規定は定めているが、職場におけるあらゆるハラスメント防止措置が法律で義務化されることから、より詳細な規程の整備が必要となった。これにより職員が遵守しなければならない事項を詳細に規定し、それぞれの事業所がより良い職場環境を構築できるようにハラスメント防止に関する内規を新たに定めた。

・外部利害関係者からのカスタマーハラスメント対策マニュアルの作成

近年、職場における職員間のハラスメントとは異なる次元の課題として、外部利害関係者からのカスタマーハラスメント(悪質なクレーム)が全国的にも報告されていることから、これらの行為への対応により職員の精神が疲弊してしまい、場合によっては退職を余儀なくされることもある。組織としては、職員に対する安全配慮義務を負っていることもあり、これを放置すると安全配慮義務を怠ったことを問われかねない。カスタマーハラスメント対策マニュアルを整備し、今後取り組むべき対策を明確に示すことで、福祉現場で働く職員の安全を確保すると共に、安心して働き続けられる環境を築くことが、ひいては人材確保、定着に繋がると考える。

・虐待防止を考える委員会による研修会

本年度、伊賀公共職業安定所から講師を招き、職員の障害者雇用における合理的配慮について、全職員を対象とした研修を開催した。平成28年(2016)4月に障害者に対する差別禁止、合理的配慮の義務の規定が施行されたことを再度確認し、同じ職場で働く職員同士の配慮と併せて、精神・発達障害に対する正しい理解を深めた。また職員が支援者ではなく、温かく見守る応援者として障害の有無に関係なく活躍できる職場づくりを目指すための、精神発達障害者しごとサポーター養成講座も併せて受講した。

・職場環境づくり

例年通り臨床心理士による「心の健康相談室」を月2回のペースで開設し、職員が受けるストレスの予防や軽減のための取り組みと共に、労働安全衛生法に基づくストレスチェックを行ない、それぞれの職場環境の改善に活かすことができた。

(3) 外国人技能実習生の受入と海外留学生に対する介護福祉士奨学金貸与の現状

令和元年(2019)10月より第二梨ノ木園においてベトナム人介護技能実習生を受け入れており、入国後2年6か月が経過した。2名のベトナム人実習生は、日本語検定2級の試験に挑戦する等意欲的な態度で業務をこなし、介護現場においても有能な人材として活躍している。次年度以降に向けて新たにインドネシアからの技能実習生の受入れ準備にかかり、2名の実習生の受入れが決定した。また、介護福祉士奨学金規程を整備し、日本国内の介護専門学校に通学する留学生の確保についても取り組み、ネパールからの留学生の奨学金貸与(2年間)を決定した。2名のネパール人留学生は、令和4年度の介護福祉士資格取得を目指し日々勉学に励んでいる。日本人介護スタッフの新規採用が困難な現状から、外国人の雇用については、人材確保に悩む介護現場の将来に大きな望みになることを期待している。

(4) 情報公開と情報発信

第三者評価については、福祉サービスの質の向上のために自己評価の実施が努力義務とされているが、本年度においては5年毎の受審の端境期の年であったことから該当する施設はなかった。次年度以降は例年の様に第三者評価を受審していくものとする。また、各施設においても財務諸表の完全公開もこれまでと同様に進めている。

(5) 地域貢献事業

地域の高齢者を対象とした「お買い物バス運行事業」は、引き続き定期運行を実施し、日常生活の一手段となっている。また、梨ノ木診療所で実施している長田地区住民を対象とした「なしのき健康講座」は、コロナ禍の中で開催が制約され例年のような成果を上げることができなかった。更に、伊賀市社会福祉法人連絡会に参画し、伊賀市全域における公益的な活動にも貢献した。

(6) いなこ保育園の改築工事設計業者の選定と改築工事請負契約について

いなこ保育園の園舎改築工事は、令和3年(2021)度及び令和4年(2022)度にわたる2か年事業として工事に着手した。同工事が完成するまでは、旧 依那古第2保育所を仮園舎として使用する。

新園舎の概要	:	所在地 三重県伊賀市市部 11 番地の 1 鉄骨造り平屋建て、延床面積 725.71 m ²
工事内容	:	新園舎改築工事及び旧園舎解体工事
工事完了予定	:	令和4年(2022)12月31日
工事業者名	:	上野ハウス株式会社
工事請負金額	:	323,950,000 円(税込み)

設計監理業者名	:	株式会社服部建築事務所
設計監理委託金額	:	8,932,000 円(税込み)

(7) 花之木保育園分園予野保育園の閉園の検討について

予野保育園は、昭和30年(1955)に地域の予野青年クラブによる託児所として開設され、翌年には上野市立予野保育所として認可を受け、昭和36年(1961)9月には当法人に統合した。しかし、年々地域の児童が減少し、令和4年(2022)度には園児数が10人を下回る見込となったことから、伊賀市と協議の上、令和4年(2022)9月末を目途に花之木保育園と統合し、その後、令和4年(2022)度末をもって閉園を検討することとなった。

(8) (仮称)依那古放課後児童クラブ建設事業について

令和3年(2021)5月に放課後児童クラブ未設置校区である依那古地区より放課後児童クラブ設置の要望書が市へ提出されたことから、令和5年(2023)4月の依那古、神戸小学校統合校開校に合わせて依那古小学校の敷地内に放課後児童クラブ開設を目指し、MORI建築設計室に基本設計を委託した。令和4年(2022)度には、子ども・子育て支援施設整備交付金と伊賀市の補助を受け、民設民営施設建設の事業として、令和5年(2023)4月開設に向け事業立ち上げに着手する。

(9) 新任管理者等研修会の実施について

管理職に求められる役割がどんどん大きくなっている中、新任管理者のステップアップだ

けでなく、後継者育成も視野に入れながら、管理職としての心構え等を学ぶための新任管理職等研修会を3講座実施した。

(10) 理事会の開催

回数	開催日	出席者数	議決・同意事項
第1回	令和3年6月4日	11名	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に係る事業報告等について ・令和2年度に係る計算書類及び財産目録について ・評議員選任候補者の推薦について ・理事及び監事選任候補者の推薦について ・評議員選任・解任委員会委員の選任について ・苦情解決制度に係わる第三者委員の選任について ・会計監査人について ・定時評議員会の招集について
第2回	6月23日	9名	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長及び常務理事の選定について ・定款の変更許可申請について
第3回	令和4年1月27日	10名	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度補正予算(第1号)について ・就業規則等規程の変更について ・花之木保育園分園予野保育園の閉園の検討について ・いなこ保育園改築工事請負契約の締結について
第4回	3月18日	11名	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度補正予算(第2号)について ・令和4年度事業目標について ・令和4年度予算について ・主要人事について ・就業規則の変更について

(11) 評議員会の開催

回数	開催日	出席者数	議決・同意事項
第1回	令和3年6月23日	10名	<ul style="list-style-type: none"> ・基本財産の処分について ・定款の変更許可申請について ・令和2年度に係る計算書類及び財産目録について ・理事及び監事の選任について ・会計監査人の選任について

(12) 監事業務

開催日	出席者数	内 容
令和3年6月3日	3名	事業監査、会計監査
8月5日	1名	いなこ保育園改築工事設計業者選定入札の立会い
10月27日	3名	会計監査人との意見交換会
令和4年1月19日	1名	いなこ保育園改築工事建築業者選定入札の立会い
その他		全ての理事会及び評議員会に出席

2 児童福祉施設について

(1) 保育園受託児童数

	0歳児			1歳児			2歳児			3歳児			4歳児			5歳児			合計		
	短	標準	合計	短	標準	合計	短	標準	合計	短	標準	合計	短	標準	合計	短	標準	合計	短	標準	合計
曙	11	39	50	40	159	199	87	226	313	109	318	427	105	330	435	76	320	396	428	1392	1820
睦	12	47	59	6	61	67	62	77	139	46	147	193	47	134	181	75	204	279	248	670	918
三田	0	7	7	12	55	67	36	36	72	57	75	132	19	74	93	36	96	132	160	343	503
中瀬城東	4	59	63	24	147	171	12	233	245	71	265	336	71	221	292	92	232	324	274	1157	1431
友生	6	6	12	24	36	60	12	64	76	66	90	156	60	48	108	33	159	192	201	403	604
花之木	0	47	47	13	35	48	9	36	45	27	36	63	44	86	130	24	108	132	117	348	465
予野	0	11	11	0	12	12	12	24	36	0	36	36	12	12	24	0	24	24	24	119	143
長田	12	12	24	0	24	24	4	32	36	24	48	72	8	52	60	24	72	96	72	240	312
みどり	5	62	67	39	184	223	84	177	261	94	287	381	92	352	444	108	329	437	422	1391	1813
ひかり	0	35	35	16	78	94	37	142	179	65	173	238	27	231	258	32	242	274	177	901	1078
みどり第二	0	88	88	12	137	149	12	174	186	99	177	276	60	226	286	65	223	288	248	1025	1273
府中	18	52	70	15	220	235	71	193	264	126	138	264	101	271	372	125	223	348	456	1097	1553
ゆめが丘	0	95	95	1	220	221	29	247	276	51	300	351	113	355	468	128	305	433	322	1522	1844
いなこ	1	36	37	36	36	72	12	53	65	15	69	84	2	94	96	36	24	60	102	312	414
合計	69	596	665	238	1404	1642	479	1714	2193	850	2159	3009	761	2486	3247	854	2561	3415	3251	10920	14171
月平均	6	50	55	20	117	137	40	143	183	71	180	251	63	207	271	71	213	285	271	910	1181
摘要	充足状況(定員に対して)94.1% (昨年度充足率83.1%)																				

(2) 保育事業充実のための諸活動

子どもたちの心身の発達と成長がより豊かで調和のとれたものになるよう、養護と教育を一体にした安心安全な発達環境づくりを進め、乳幼児の成長発達を保障する保育内容の充実を図った。更に、保護者の子育てと就労の両立支援のため、低年齢児保育推進事業・延長保育事業・家庭支援推進保育事業・障害児保育事業・地域子育て支援拠点事業・一時預かり事業・休日保育事業・放課後児童健全育成事業の様々な保育サービスを実施し、子育て家庭に対する支援に努めた。

令和4年(2022)年1月初旬より伊賀地域においても新型コロナウイルス感染症が拡大し始めた。各保育園では1月中旬から陽性者の判明が相次ぎ、感染拡大防止のための休園措置や、接触者に当たる園児の集団検査等の実施が続いた。各保育園では、消毒や換気、健康観察等を行ないながら、新しい生活様式の中での保育を継続した。

ア 一時預かり・休日保育事業

保護者の育児に対する心理的・身体的負担の軽減や、外国籍の児童の受け入れ及び保護者の休日就労等の支援を積極的に進めた。

【一時預かり事業】

園名	年間利用人数	園名	年間利用人数
曙保育園“ピッコロ”	703名	みどり第二保育園“きらら”	254名
花之木保育園	58名	三田保育園	17名
友生保育園	129名	府中保育園	103名

【休日保育事業】

園名	開設日数	年間利用人数
曙保育園“ハミング”	68日	324名

イ 延長保育事業

曙保育園・睦保育園・中瀬城東保育園・みどり保育園・ひかり保育園・みどり第二保育園・府中保育園・ゆめが丘保育園・いなこ保育園の9保育園において実施し、保護者の就労と子育て支援の強化を推進した。

ウ 地域子育て支援拠点事業

支援センター名	開設日数	登録世帯数	年間利用人数
地域子育て支援センター“すくすくらんど”	219日	68世帯	423名

令和3年(2021)8月27日～9月30日の緊急事態宣言中や、令和4年(2022)1月21日～3月6日の蔓延防止重点措置の間は、新型コロナウイルス感染予防の観点からすくすくひろば等の事業は中止となったが、それ以外は感染対策を行ないながら実施した。他の12保育園において自主事業として計画していたミニ子育て支援事業は残念ながら実施できなかった。

エ 障害児保育事業

心身障害児療育保育施設かしのみ園では、伊賀市子ども発達支援センターとの連携を密にすると共に、医療機関、保健所、児童相談所等の専門機関による指導・援助を受けながら、個別的・集中的療育と、交流保育・統合保育との有機的連携を基本とする当法人独自の療育保育を一層充実させるよう努めた。また、職員の療育保育の知識や技術の向上を目的とした研究会・勉強会を開催し、「子どもの理解からはじめる感覚統合遊び 保育者と作業療法士のコラボレーション」(クリエイツかもがわ 2019年)を参考文献として、感覚統合の視点から気になる子の行動の理由について検討し、子どもたちの過ごしやすい保育環境について学び合った。保護者を対象とする「ふれあい教室」の講演会、輪読会、レクリエーション等は開催を見送った。“ふれあいらんど”では、発達について気になる子、子育てに悩んでいる保護者等への相談や指導・援助を行なった。

【ふれあいらんど】

登録者数	7名	1回平均利用者数	1.5名
------	----	----------	------

オ 障害児通所支援事業

【ヴェルデ】

小学生を対象に実施している障害児日中一時支援事業所“ヴェルデ”は、障害児の日中における活動の場を確保し、保護者の就労支援及び必要な休息が得られることを目的とした子育ての負担軽減を図った。

登録児童数	48名(1～6年生)	1日平均利用児数	10名
-------	------------	----------	-----

【ヴェルデ ドゥ】

放課後等デイサービス事業所“ヴェルデ ドゥ”は、放課後において障害児が日常生活における基本的動作及び集団行動に適応できるよう支援に努めた。また、生活能力を向上させ社会との交流が図れるように一人ひとりの成長発達に合わせた訓練を行なった。

登録児童数	44名(1～6年生)	1日平均利用児数	6名
-------	------------	----------	----

カ 放課後児童健全育成事業

就労等により保護者が家庭にいない小学生に生活の場を提供し、児童の健全な育成支援に努めた。

- ・ “風の丘” “第2風の丘” は、通常利用の開所時間を午後7時まで延長
- ・ “キッズうえの” は長期休業期間中、開所時間を早め、午前7時30分に開所
- ・ 土曜日利用や、校区外の利用の受け入れについては、地域のニーズに対応

伊賀地域に新型コロナウイルス感染症が拡大した夏休みや年明けには、保育園同様、児童クラブの休所や集団検査を行なうことが増えた。その都度各小学校と連絡を取り合い、感染予防に十分配慮しながらの受け入れとなった。

登録児童数	482名(年間利用・長期利用 374名、一時利用 108名)
-------	--------------------------------

<1日平均利用人数>

所轄施設	施設名	人数	所轄施設	施設名	人数
曙保育園	キッズうえの	21名	みどり第二保育園	フレンズうえの	20名
	ふたば	30名		第2フレンズうえの	27名
花之木保育園	成和西	11名	ゆめが丘保育園	風の丘	26名
	成和東	17名		第2風の丘	18名
府中保育園	ウイングうえの	30名	計		200名

キ 食育の推進

1日の生活時間の大半を過ごす保育園における食育の推進はきわめて大切である。各園では食育計画を作成し、生活や遊びの中で、仲間と関わりながら栽培活動等を行なった。これらの体験を通して、食への関心を育み「食を営む力」の基礎を培う食育を実践した。

ク 世代間交流事業

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、世代間の交流を行なうことは殆んどできなかったが、花之木保育園では老人デイサービスセンターなしのきとの交流を、ビデオレターを送るという形に変えて実施した。

ケ 第36回子どもフェスティバル

当法人の保育園や児童クラブの活動内容を保護者や地域の人々に、更に理解していただく機会とするため、例年13保育園と児童クラブ9施設合同で、県立ゆめドームうえのにおいて開催してきた。今年度は昨年度同様、コロナ禍でも実施できる方法を模索し、各園での開催とした。テーマを『あそびいっぱい 子どもの世界』とし、サブテーマを各園で設定。子どもたちが様々な遊びを楽しみ、意欲的に活動できるよう工夫した。

コ 読書活動支援事業

子どもにとって、生きる力を身につけていく上で欠くことのできない読書活動を、曙保育園の本とおもちゃルーム“ぐるんぱ”を中心に推進しているが、今年度は絵本ボランティアグループ“もこもこ”による読み聞かせ活動は実施することができなかった。

サ 安全対策の充実

- ・全国各地で頻発する地震や、異常気象による自然災害等に対応するための、非常災害対策計画、防災計画、施設危機管理マニュアル、備蓄品等の見直し
- ・不審者の侵入等から子どもの安全を守るための、防犯訓練の継続実施
- ・専門技術者による遊具の安全点検(年1回)の実施
- ・安心安全に食事を提供するための衛生管理の徹底や施設備品の整備
- ・新型コロナウイルス感染症等の拡大防止について、各園での消毒、換気等の衛生管理の徹底、非接触型体温計やサーモグラフィーや空気清浄機、加湿器等の整備

シ 業務効率化推進事業

保育業務の負担軽減を目指して、平成28年度(2016)より保育支援システムを導入し、書類作成業務についてのICT化を進めている。保育支援システムを活用することで、指導計画や園児台帳の作成等における成果や課題を検証しながら事務作業を効率化していく。

<すでに導入している施設>

曙保育園、中瀬城東保育園、みどり保育園、府中保育園、ゆめが丘保育園

<本年度導入し、令和4年(2022)度運用開始に向け準備を進めた施設>

睦保育園、友生保育園、みどり第二保育園

ス 設備整備について

- ・曙保育園2階保育室の空調機老朽化のため、新しく設置
- ・放課後等デイサービス事業所ヴェルデドゥと日中一時支援事業所ヴェルデを一体的に運営できるよう、みどり保育園園舎2階の一部を改修
- ・保育環境改善等事業(新型コロナウイルス感染症対策支援事業)補助金を活用し、消毒液等消耗品や空気清浄機等コロナ対策機器の整備

(3)職員の研修状況

保育園研修組織では、子どもへの視点を中心におき、保育の質と技量を磨き、自ら考え、保育に資することのできる幅広い知識と教養を身につけられるよう資質向上に努めた。併せて、法人内の虐待防止を考える研修等に参加し、広く社会経済情勢にも視野を広げることで、当法人にふさわしい内部研修体制を積極的・能動的に機能させ、職員の人材育成に努めた。

ア 職員の研修体制及び各種委員会

- ・保育園長会 ・リーダー研修会 ・新任研修会 ・人権同和保育研究会
- ・障害児療育保育研究会 ・保健衛生感染症対策研究会
- ・施設安全推進委員会 ・子どもフェスティバル推進委員会

イ 研修組織わかば会

全保育関係職員を対象とした研修組織わかば会では、“子どもにとっての最善の利益を実現する”という原点に立って研鑽を積んだ。発達を保障し、主体性を育む保育をめざして、「子どもが主体的にあそびを選び、遊びこむことができる環境」について検討した。例年開催している法人内の公開保育は実施することができなかったが、昨年度は県社協の公開保育を友生保育園で実施した。子どもたちが夢中になって遊びこむ姿や、自然の中で十分に体を動かして遊ぶことができるように工夫した保育環境を見ていただき、たくさんの感想やご意見をいただいた。これからも、伊賀市内保育園がめざす「あーたのしかった！の毎日を保育のねっこに」という理念のもと、「環境を工夫した保育」に取り組んでいきたいと考える。また、給食部会では子どもの健やかな成長のため、安心・安全な食事の提供に努めた。特に離乳食や食物アレルギー等に関しては、子どもの発達特性を知り、一人ひとりに応じて個別対応ができるよう、知識や技術を身に付けた。また、食中毒防止のための衛生管理の知識や調理業務におけるヒヤリハット事例に学び、日常業務に活かすようにした。食育にも積極的に取り組み、日本の食文化の継承について関心が高まるよう、保護者への啓発にも努めている。

ウ 職員の資質向上のための研修会参加内容

研 修 会 名	開催月日	参加人数
三重県保育士協会研修会(オンライン)	4月30日 他1件	28名
三重県保育総合研修会(オンライン)	5月16日	14名
三重労働基準協会連合会 衛生推進者養成講習	5月17日	2名
三重県社会福祉協議会 (オンライン) 自主企画研修「対人援助に効くストレスマネジメント」他	6月15日 他1件	8名
上野同和教育研究協議会研修会 就学前部会研修会	6月24日 他2回	15名

保育士キャリアアップ研修	7月22日 他7件	38名
伊賀市保幼小連携についての研修会	7月27日	14名
三重県看護協会「新型コロナウイルス感染症防止研修会」(オンライン)	10月22日	7名
三重県人権教育研究協議会 2021年度人権保育専門講座	10月28日 他3回	24名
第64回全国保育研究大会	11月17日	15名
人権を考える市民の集い	12月5日	14名
令和時代の働きやすい保育所運営定着事業研修	12月8日	9名
1on1 コーチング研修 (オンラインで全16講座)	12月～3月	3名
三重県私立保育連盟 (オンライン)	2月4日	4名
伊賀市こども発達支援研修会(オンライン)	2月5日	26名
伊賀市保育所(園)長主任研修会(オンライン)	2月18日	28名
厚生労働省 児童福祉施設給食関係者研修(オンデマンド)	2月28日～3月29日	16名
他20件		59名
計		253名

(4) 職場実習研修の受け入れ状況

- ・岡波看護専門学校の小児看護学実習の実施
- ・保育士を目指す学生のための保育実習の実施

(中学生・高校生らの福祉体験やインターンシップ事業、伊賀白鳳高校が実施している伊賀版デュアルシステムの受け入れは中止)

【職場実習研修受け入れ状況】

学生保育実習	28名 延べ280日
--------	------------

3 高齢者施設について

地域における老人福祉の中核としての役割を担っている高齢者関連施設は、支援を必要としている方々の生活の質の維持・向上と、ご家族の日常生活の安定を支えるための事業を本年度も継続して実施することができた。

介護職員の確保等職員採用が年々厳しい状況になっており、介護業界の離職率は、他業種に比べて高いと言われている。しかしながら当法人の高齢者施設は、仕事や人間関係を理由に離職する職員が、減少傾向にある。事業目標に掲げていた、チームワークと働き易く魅力ある職場づくりを継続して実践し、更に離職率を抑制することで、人材不足を補いたい。

(1) サービス利用状況

盲養護老人ホームは4名の退所があったが、新規入所者を継続的に確保できた。しかし、待機者は少なく、入所希望者の確保が困難な状況は続いている。

特別養護老人ホームの稼働状況は入院者の増加等が影響し、年間平均94.8%と昨年比1.8%の減少となった。ショートステイ事業は、昨年度から続く新型コロナウイルスによる利用控えと、施設入所される方の増加により、稼働率は83%で2.1%減少した。

デイサービスセンターは、コロナ禍の影響もあり新規利用者の確保が困難となり、総合事業を含めた1日平均利用者数が12.3名で、昨年度より3.4名減少した。

在宅介護支援センターでは、年間60名の利用者と契約し、ケアプランの作成と相談業務を

行なった。

(2) 感染症対策

昨年に続き、施設内に新型コロナウイルス及びインフルエンザ感染症を持ち込まないことは、施設運営上の最重要ポイントであった。職員のPCR検査及び抗原検査を実施する等早期発見に努め、入所者への感染を阻止することができた。

(3) 施設の安全管理

災害発生時の人命保護並びに被害の軽減・防止のための検討会議を毎月開催し、災害時の事業継続計画やライフライン設備の確認等を行なった。また、新任職員に対して施設内にある防災関連設備の使用方法や仕組みについての研修会を実施した。

【盲養護老人ホーム梨ノ木園】

(1) 利用者の状況

ア 入退所者数

区分	利用者数	入所者数	退所者数
人数	60名	4名	4名

イ 年齢構成

以上 未満	65歳 未満	65歳 ～ 70歳	70歳 ～ 75歳	75歳 ～ 80歳	80歳 ～ 85歳	85歳 ～ 90歳	90歳 ～	計	平均 年齢
男	0	1	5	5	5	5	1	22名	75.6歳
女	0	1	1	6	11	7	12	38名	85.7歳
計	0	2	6	11	16	12	13	60名	82.0歳

ウ 視覚に障害がある利用者数

身障手帳による等級	1級	2級	3級	4級	5級	なし	計
利用者数	38	10	6	2	3	1	60名

(2) 介護サービス利用者数

訪問介護利用者 9名

(3) 施設設備の改善

- ・北棟屋上防水工事
- ・北棟廊下、厨房エアコン入替
- ・エレベーター制御盤内駆動装置交換

(4) 施設機能の強化と個別ケアの充実

- ・各クラブ事業の実施
詩吟・俳句・民謡・生花・書道・カラオケ・器楽・ご詠歌クラブを毎月実施
上野点字図書館朗読ボランティアによる読書会を実施
- ・コロナ禍における提供サービスの充実
外出行事自粛中のため、市内飲食店から昼食を出前注文する行事を実施

(5)職員の資質向上

高齢者福祉施設職員としての資質向上を図るため、梨ノ木職員研修会や施設外の研修会に参加した。

(梨ノ木職員研修)

研 修 テ ー マ	開 催 月 日
新任職員研修 安全衛生と健康管理・感染症の基礎知識・虐待防止の基礎知識 社会福祉施設における事故防止について 非常災害時の心構えと施設の防災設備について	4月1日・14日
マナーセミナー(中北薬品) ～利用者さまに心を届けましょう～	5月7日
介護現場におけるハラスメントについて	9月24日
伊賀老施協 21世紀委員会合同研修会 施設の取り組み発表を視聴	12月17日
各施設の取り組み発表 (梨ノ木園) 元気に自分らしく生活するために ～ 転倒防止に向けた取り組み ～ (第二梨ノ木園) 日常にひそむ不適切ケア ～ 認知症ご利用者の気持ちを知って、皆で笑顔になろう ～ (梨丘園) コロナ禍での新たな取り組みについて (デイなしのき) 口腔体操とストレッチ体操 ～ 昼食前の時間を使って ～	3月10日

(施設外研修)

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
三重県社協 「高齢者施設のリスクマネジメント」	6月1日	14名
三重県 福祉施設職員向け防災研修会	8月17日	1名
三重老施協 「社会福祉施設におけるリーダーシップ」研修会	9月22日	2名
三重老施協 排せつ支援加算取得に向けた研修会	9月29日	1名
三重老施協 人権問題及び権利擁護に関する研修会	10月13日	1名
伊賀労基署 労働災害防止学習会	11月15日	1名
三重県社協 キャリアパス対応生涯研修「初任者コース」	11月18・19日	2名
全国老施協 第78回全国老人福祉施設大会(オンデマンド)	11月25日～ 3月31日	2名
全国老施協 全国老人福祉施設研究会議(オンデマンド)	1月13日～ 3月31日	3名
伊賀老施協 介護、福祉施設のための同一労働同一賃金研修会	2月16日	2名
伊賀地区福祉後見サポートセンター 権利擁護支援啓発研修	2月22日	1名
計	11件	30名

【特別養護老人ホーム第二梨ノ木園】

(1) 利用者の状況

ア 入所利用者数

年間利用者数	1日平均利用者数	稼働率	平均介護度
17,310名	47.4名	94.8%	3.92

イ 年齢構成

以上 ～ 未満	65歳 ～ 70歳	70歳 ～ 75歳	75歳 ～ 80歳	80歳 ～ 85歳	85歳 ～ 90歳	90歳 ～	計	平均年齢
男	0	0	2	2	5	1	10名	85.4歳
女	0	5	2	4	7	22	40名	89.0歳
計	0	5	4	6	12	23	50名	88.3歳

ウ ショートステイの利用状況

年間利用者数	1日平均利用者数	稼働率	平均介護度
6,059名	16.6名(定員20名)	83%	2.99

(2) 施設設備の改善

- ・ティーマシー入替
- ・エレベーター基盤交換

(3) 施設機能の強化と個別ケアの充実

- ・介護の重度化に対応した個別的援助の強化
- ・施設が目指す「看取り介護」を家族と共に実践
- ・福祉教育への協力と人材確保に向けた実習受け入れ及び地域交流の促進
(実習等受入事業)

実施内容	実施月日	人員
県立伊賀白鳳高等学校ヒューマンサービス科3年生Ⅳ期介護実習	7月26日 ～11日間	2名実習
県立あけぼの学園高等学校3年生 施設見学 ※感染症蔓延防止対策のため応接室にて実施	7月28日	2名来園
県立伊賀白鳳高等学校ヒューマンサービス科2年生Ⅰ期施設見学 (新型コロナ対策にて実習は中止)	8月17日	2名来園
県立伊賀白鳳高等学校ヒューマンサービス科2年生Ⅱ期介護実習 (新型コロナ対策により期間縮小)	10月26日 ～7日間	3名実習
県立伊賀白鳳高等学校ヒューマンサービス科3年生Ⅵ期介護実習 (新型コロナ対策により期間縮小)	10月14日 ～8日間	2名実習
県立あけぼの学園高等学校2年生インターンシップ	12月1日 ～2日間	1名来園
県立伊賀白鳳高等学校ヒューマンサービス科2年生Ⅲ期介護実習 (新型コロナ対策により期間縮小)	1月6日 ～2日間	2名実習

(4) 職員の資質向上

職員としての資質向上を図るため、梨ノ木職員研修会や各種委員会、検討チームによる勉強会、施設外の研修会(オンライン研修)に参加した。

(施設外研修)

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
明慎福祉会 三重県認知症実践者研修	6/15 他7日間	2名
全国老施協 施設における介護ロボット・ICT導入事例研修	7月5日	1名
三重県社協 「介護の記録 記録の基礎」研修	8月27日	1名
三重県 介護施設等における権利擁護推進員養成講座	8/31, 9/30, 11/29	1名
伊賀市 伊賀市地域資源データベースシステム説明会	9月14日	1名
三重老施協 「社会福祉施設におけるリーダーシップ」研修会	9月22日	2名
三重老施協 人権問題及び権利擁護に関する研修会	10月13日	1名
三重県 新型コロナウイルス感染症対策研修会	11月4日	1名
伊賀労基署 労働災害防止学習会	11月15日	1名
ナリコマエンタープライズ 栄養士オンライン研修	11月29日	1名
三重県社協 「社会福祉施設のクレーム対応」	12月8日～14日	2名
伊賀老施協 介護、福祉施設のための同一労働同一賃金研修会	2月16日	1名
計	12件	15名

【老人デイサービスセンターなしのき】

(1) 利用者の状況

・利用者数

利用登録者	年間利用者数	1日平均利用者数
35名	3,179名	12.3名

・利用内容別状況

開所日数	通所介護	総合事業 (現行相当サービス)	入浴サービス	給食サービス
257日	2,697名	482名	2,998名	3,146名

(2) 年間行事実施状況

月別	内 容
4月	なしのき開所24周年記念行事、健康チェック(口腔内チェック、身長、体重)
5月	春季運動会
7月	防災講話「災害に備えましょう」 花之木保育園・分園予野保育園との交流(ビデオメッセージ) 夏まつり(うちわ作り、屋台めぐりゲーム)
8月	簡単なおやつ作り(プリンでのデコレーション)
9月	敬老週間(歌のリクエスト)
10月	健康チェック(口腔内チェック、身長、体重)
11月	なしのき芸術祭

12月	簡単なおやつ作り(あん巻き、どら焼き)
1月	新春お祝い会(絵馬作り、昔なつかしの遊び)
2月	栄養講座「牛乳について」
3月	なしのき感謝祭 長田保育園との交流(プレゼント)
月例	誕生会、防災訓練、健康体操(月替わり)、口腔体操、ストレッチ体操、壁面制作

(3) 職員の資質向上

- ・高齢者福祉施設職員としての資質向上を図るため、梨ノ木職員研修会、定例勉強会や施設外の研修会(オンライン研修)に参加した。

(施設外研修)

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
いが移動送迎連絡会 運転協力者ステップアップ講習	10月17日	1名
計	1件	1名

【在宅介護支援センターなしのき】

(1) ケアプラン作成実施状況

ケアプラン契約者数 63名

内 容	年間利用人数
通所介護(含：認知症対応型)	298名
短期入所生活介護	156名
短期入所療養介護(介護老人保健施設)	2名
特定施設入居者生活介護(短期利用)	2名
通所リハビリテーション	64名
訪問介護	218名
訪問看護(リハビリテーションを含む)	52名
訪問入浴	55名
訪問リハビリテーション	43名
福祉用具貸付	397名
地域密着型通所介護	70名

(2) 相談件数

区分	年間相談人数					相談実人数	在宅サービス 適用者実人数
	訪問相談	来園相談	電話相談	文書	計		
人数	2名	3名	15名	0名	20名	20名	16名

(3) 施設設備の改善

- ・公用車更新(スズキアルト)

(4)職員の資質向上

職員としての資質向上を図るため、梨ノ木職員研修会及び施設外の研修会(オンライン研修)に参加した。

(施設外研修)

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
伊賀市 介護サービス事業所等集団指導	5月26日	1名
三重在介協 第1回総会・初任者研修	8月3日	1名
伊賀市 市内居宅介護支援事業所向け研修会	8月16日	1名
日本ケアサプライ 介護保険2022年に向けた準備と対策	10月26日	1名
東海北陸ブロック在介協 研究協議会	11月18日	1名
伊賀市 高齢者虐待防止研修会	2月21日	1名
伊賀市地域福祉後見サポートセンター 伊賀市権利擁護支援啓発研修	2月22日	1名
伊賀市 第3回市内居宅介護支援事業者向け研修会	3月17日	1名
計	8件	8名

4 障害者施設について

梨丘園は、「自宅にいるような安らぎとその人らしい生活」を運営の基本姿勢とし、障害のある方々の自己決定に基づき、充実した生活を送ることができるよう支援に努めた。また、高齢化・重度化している利用者の身体機能の維持向上のため、理学療法士による機能訓練等個々のプランに沿ったきめ細かい介護支援サービスを提供した。

新型コロナウイルス感染症により行動の制限等が続く中、利用者の心身の負担は大きい。園内行事や活動に工夫を凝らし、コロナ禍においても活気のある快適な生活を送ってもらえるように努めた。

利用者一人ひとりの個別支援の質の向上と、制度の理解や専門性のレベルアップを図ると共に、洞察力や先見力を発揮することができる職員を育成するため各種研修会に参加した。

併設する「相談支援事業所すきっぷ」では、児童から成人まで幅広いライフステージの方々の福祉に関する諸問題について相談に応じ、必要な情報提供やサービスの利用支援を行なうほか、権利擁護のための援助を行なった。また、障害者が自立した日常生活や社会生活を営むために必要な障害福祉サービスが、適切かつ効率的に利用できるよう計画相談支援を提供した。

【身体障害者支援施設梨丘園】

(1)利用者の状況

ア 年齢構成

(令和4年3月31日現在)

以上 〈 未満	20歳 〈 25歳	25歳 〈 30歳	30歳 〈 35歳	35歳 〈 40歳	40歳 〈 45歳	45歳 〈 50歳	50歳 〈 55歳	55歳 〈 60歳	60歳 〈 65歳	65歳 〈 70歳	70歳 〈	合計
男	0	1	0	0	2	1	0	3	2	1	2	12名
女	0	0	0	0	2	0	0	0	1	3	2	8名
計	0	1	0	0	4	1	0	3	3	4	4	20名

[定員 20名]

性別	最年長	最年少	平均年齢
男	70歳5か月	25歳1か月	55.08歳
女	79歳2か月	43歳6か月	62.37歳
			58.72歳

イ 身体障害状況

・障害支援区分

区分4	区分5	区分6	合計	平均区分
4名	4名	12名	20名	5.4

(2)年間行事実施状況

月別	内 容
4月	トーク DE りきゅう、おひさまカフェ、Sun ² ピクニック(白鳳公園)、Leaf タイム(作品づくり)
5月	第20回開園記念日(「RIKYUU 2021」)、Sun ² ピクニック(岩倉峡)、Leaf タイム(ヘッドスパ&足浴)
6月	ウーバーりきゅう(ハンバーガー、洋食)Leaf タイム(作品づくり)、リクエスト外出
7月	栄養講座、ウーバーりきゅう(カレー・デザート)、Leaf タイム(作品づくり)リクエスト外出
8月	サマープチフェスタ(ハーバリウム作成)、リクエスト外出
9月	トーク DE りきゅう、Leaf タイム(温泉浴)
10月	栄養講座、おひさまカフェ、Leaf タイム(スムージー作り)リクエスト外出、ハンドメイドりきゅう(ドーナツ・チヂミ)
11月	第21回往古梨まつり、リクエスト外出、Leaf タイム(紅葉ドライブ)
12月	年末お楽しみ会(歌謡ショー)、リクエスト外出、Leaf タイム(リース作成)
1月	新年祝賀会、初笑い会、Leaf タイム(作品づくり)
2月	節分、ハンドメイドりきゅう(ロールケーキ・ミニお好み焼き)
3月	栄養講座、トーク DE りきゅう、Leaf タイム(いちごパフェ)
月例	カフェりきゅう、防災訓練

- * 俳句クラブ、書道クラブ、リトルファーム(園芸クラブ)、ふれあいの時等の活動は感染症の状況に配慮しながら実施した。
- * Leaf タイムは個々の支援の充実を図るため、一緒に生活する仲間や職員と楽しく活動することを目的として、外出や創作活動をグループに分かれて実施した。
- * リクエスト外出は新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、ショッピングのみ短時間で実施した。
- * 生活協同組合の宅配サービスを利用し、生活用品や嗜好品をカタログから選んで購入できるようにした。

(3)施設設備の改善

- ・2F フロアのテレビ入替
- ・業務用冷蔵庫の入替

- ・エレベーター制御盤内電磁接触機器交換

(4) 職員の資質向上

職員としての資質向上を図るため、梨ノ木職員研修会や各委員会による施設内研修会と、施設外の各種研修会(オンライン研修)に参加した。

(施設外研修)

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
三重県労働基準協会連絡会 衛生推進者養成講習	5月17日	1名
全国障害者総合福祉センター 障害者施設職員研修会	8月7・8日	1名
三重県社協 三重県サービス管理責任者等更新研修	9月3日～10日	1名
伊賀市 伊賀市地域資源データベースシステム説明会	9月14日	1名
全国障害者総合福祉センター 意思決定支援と虐待防止に関する研修会	10月23・24日	1名
榊原病院 自閉症・発達障害研修会	11月18日	1名
三重県理学療法士会 第6回中勢ブロック事業	1月19日	1名
全障協 障害者虐待防止リーダー研修会(オンデマンド)	1月24日～ 2月25日	2名
伊賀市 第1回障がい福祉研修会	1月25日	1名
三重県理学療法士会 「保健事業と介護予防の一体的な実施に向けて」	2月6日	1名
近障協 近畿地区身体障害者施設協議会施設長研修会	2月18日	1名
セントワークス 働き方改革セミナー	3月16日	1名
全国身障協 第34回経営セミナー(オンデマンド)	3月25日～ 4月28日	1名
計	12件	13名

【相談支援事業所すきっぷ】

(1) 利用者数(年間相談件数)

区分	訪問相談	来所相談	同行	電話相談	LINE等 相談	個別支援 会議	関係機関
障害者 件数	366件	33件	8件	687件	44件	サービス 担当会議 211件	1,743件
障害児 件数	8件	172件	3件	5件	0件	サービス 担当会議 84件	13件

・相談内容別件数

相談内容	障害者 件数	障害児 件数
福祉サービスの利用等に関する支援	2,680件	444件
障害や病状の理解に関する支援	1,848件	4件
健康・医療に関する支援	1,814件	0件
不安の解消・情緒安定に関する支援	1,642件	1件
保育・教育に関する支援	26件	10件
家族関係・人間関係に関する支援	1,227件	4件

家計・経済に関する支援	402 件	0 件
生活技術に関する支援	1,306 件	0 件
就労に関する支援	632 件	3 件
社会参加・余暇活動に関する支援	293 件	0 件
権利擁護に関する支援	70 件	0 件
その他	24 件	0 件
計	11,964 件	466 件

(2) 指定計画相談支援実施状況等

障害者	本年度契約者数	99 名(新規 15 名)
	サービス等利用計画作成数	106 件
	継続サービス利用支援作成数	241 件
障害児	本年度契約者数	56 名(新規 7 名)
	障害児支援利用計画作成数	59 件
	継続障害児支援利用援助作成数	71 件

(3) 職員の資質向上

障害者福祉施設職員としての資質向上を図るため、梨ノ木職員研修会のほか、施設外の研修会に参加した。

(施設外研修)

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
三重県社協 相談支援専門員現認研修	10/14 他 3 日	1 名
榊原病院 自閉症・発達障害研修会	11 月 18 日	1 名
日本相談支援専門員協会 日本相談支援専門員協会東海・北陸ブロック三重大会	11/27～28	1 名
三重県社協 三重県障害者虐待防止・権利擁護研修	2/8～14、2/17	1 名
計	4 件	4 名

5 上野点字図書館について

昭和 46 年(1971)4 月に開館した上野点字図書館は、本年 50 周年を迎えた。この節目の年に、これまでの事業のあゆみを振り返り、長年支えていただいた多くの関係者に感謝を伝えるべく事業を展開した。あわせて、今後も地域や社会に求められるサービスを提供・継続するために、視覚障害者をはじめとする利用者のニーズの把握に努めた。

(1) 図書の整備等

サピエ(視覚障害者情報総合ネットワーク)と連動した Web 図書館システムを活用することにより、所蔵資料の精度の高い書誌管理と迅速な資料の提供に努めた。

ア 蔵書の状況

(令和 4 年 3 月 31 日現在)

区 分	タイトル数	分冊数(分巻数)
点字図書	5,220	16,278 冊
録音図書	11,421	23,361 巻

イ 資料の利用状況

資料の形態	年間延べ貸出利用数	データダウンロード利用数
点 字	1,701 人	1,034 件
録 音	8,447 人	15,724 件

ウ 機関誌の発行

- ・「図書館通信」(点字版・録音版・大活字版) 隔月発刊(偶数月) 発行部数 152 部
主な送付先 個人利用者、視覚障害者情報提供施設、公共図書館等

エ 逐次刊行物の製作、発行

- ・「中日春秋」(中日新聞コラム／録音版) 2 週間毎に発刊 年 26 回
- ・「広報いが」(市広報紙／点字版・録音版) 年 12 回
- ・「伊賀市議会だより」(市議会広報紙／録音版) 年 4 回
- ・「伊賀市社協だより」(市社協広報誌／録音版) 年 12 回
- ・「墨字図書案内」(新刊図書情報／録音版) 隔月発刊(奇数月) 年 6 回
- ・「伊賀市 資源・ごみ収集カレンダー」(点字版／録音版) 年 1 回

オ 啓発業務

<点字図書館事業を紹介するパネル展 1 >

上野郵便局局内に点字図書館事業を紹介した写真付きパネルを設置

令和 3 年 8 月 27 日(金)～令和 4 年 3 月 28 日(月)

<点字図書館事業を紹介するパネル展 2 >

伊賀市上野図書館を会場に点字図書館で扱うバリアフリー資料と説明パネルを展示

点字図書館開館 50 周年記念パンフレットや録音図書を紹介する資料等を設置

令和 3 年 11 月 3 日(水)～11 月 28 日(日)

<点字図書館事業を紹介するパネル展 3 >

伊賀市役所を会場に点字図書館事業やバリアフリー資料を紹介したパネルを展示

点字図書館開館 50 周年記念パンフレットや録音図書を紹介する資料等を設置

令和 4 年 1 月 11 日(火)～1 月 31 日(月)

<点字教室の開催>

新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止

<機器等の貸出>

録音図書再生機の貸出 15 台

点字器の貸出 31 台

講習会受講者 1 台 4 月 1 日～ 7 月 16 日

久米小学校 30 台 12 月 13 日～12 月 27 日

点字資料の貸出

久米小学校 6 冊 12 月 13 日～12 月 27 日

点訳ソフトの貸出 1 台 7 月 16 日～ 3 月 31 日

<視覚障害者理解のための小学校での福祉授業への講師派遣>

新型コロナウイルス感染拡大防止のため講師派遣が中止となったことから

代替事業として各学校へ館内写真の提供や点字資料の貸出を行なった

カ 法人内施設との連携業務

- ・かしの木ひろば 「ときめきニュース」の点字版製作 年 12 回(57 頁)
- ・梨ノ木園 給食献立表等の点字印刷 年 60 回(435 頁)
- ・梨ノ木園 利用者への対面読書 年 24 回(106 名)
- ・梨ノ木園 多目的室への図書整備 点字図書 15 タイトル 79 冊
録音図書 41 タイトル 41 巻

(2) ボランティアの養成状況等

点訳及び音訳ボランティアの養成を図るために新規講習会を実施すると共に、活動中のボランティアを対象とした研修会を行ない多様な墨字資料に対応できる人材の確保に努めた。

ア ボランティア数

グループ名	会員数	計
上野点訳奉仕グループ あい	8名	点訳ボランティア数 18名
名張点訳グループ あかり	9名	
点訳グループ無所属(個人での活動)	1名	
上野音訳グループ しのび	26名	音訳ボランティア数 43名
名張音訳グループ こだま	14名	
音訳グループ無所属(個人での活動)	3名	

イ 養成業務

<講習会>

- ・点訳ボランティア養成講習会(応用)※通信添削 23回 延べ添削回数 23回
- ・音訳ボランティア養成講習会(基礎) 12回 延べ受講者数 99名
- ・音訳ボランティア養成講習会(応用) 8回 延べ受講者数 62名
- ・点訳ボランティア定例研修会 7回 延べ出席者数 40名
- ・音訳ボランティア定例研修会 18回 延べ出席者数 177名
- ・点訳・音訳ボランティア合同研修会 ※新型コロナ感染拡大防止のため開催を中止

(3) 委託事業その他関係機関からの依頼業務

行政等からの委託を受け、点字及び録音資料を製作・提供することにより、視覚障害者等の社会参加の促進に努めた。

ア 三重県

- ・第49回衆議院議員総選挙及び第25回最高裁判所裁判官国民審査に係る「名簿」の点字版製作及び「投票用紙用点字シール」の製作
- ・三重県知事選挙及び県議会議員補欠選挙に係る「候補者名簿」の点字版製作及び「投票用紙用点字シール」の製作

イ 伊賀市

- ・伊賀市障害者相談員連絡会開催に係る会議資料等の点字版製作
- ・「広報いが」点字版・録音版の製作及び発送、市ホームページ掲載用音声データの提供
- ・「伊賀市議会だより」録音版の製作及び発送

ウ 伊賀市・名張市

- ・点訳、音訳奉仕員養成事業(点訳・音訳ボランティア養成講習会の開催等)

エ その他

- ・伊賀市視覚障害者福祉会役員会及び総会資料の点字版製作
- ・議会議員選挙に係る「候補者名簿」の点字版製作(津市)
- ・首長選挙及び議会議員選挙に係る「候補者名簿」の点字版製作(大台町)

(4) 職員の研修等の状況

情報の収集と点字図書館職員としての資質向上を図るため、参加型をはじめオンライン等により開催された研修及び会議に参加した。

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
伊賀市図書館協議会	5月26日 他1日	2名

「サピエ図書館」音声デジータ登録団体 資格審査プロジェクト会議	6月15日 他3日	4名
日盲社協情報サービス部会総会	6月25日	1名
中部ブロック音訳担当職員研修会	6月29日	1名
全視情協通常総会	6月30日	1名
中部ブロック館長会議	7月8日	1名
全視情協臨時総会	10月1日 他2日	3名
第46回全国視覚障害者情報提供施設大会	10月13日～14日	3名
サピエ研修会	12月2日～3日	3名
中部ブロック点訳担当職員研修会	12月6日	1名
中部ブロックサービス担当職員研修会	1月26日	1名
三重県音訳ボランティア指導者研修会	2月8日	1名
「音訳指導技術講習会」ブロック説明会	2月10日	2名
日本点字技能士協会「冬の研修会」	2月19日	1名
三重県点訳ボランティア指導者研修会	3月9日	1名
合 計	21件	26名

6 伊賀市盲人ホームについて

盲人ホームの設置目的は、三療師(あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師)資格を有する視覚障害者に自身での開業又は就業までの期間において、施設の利用を認めると共に技術指導を行ない、利用者の自立更生を図ることである。

当ホームが昭和35年(1960)から長期にわたり三療を志す視覚障害者の就業研修に対する要望を受け入れる施設として機能してきましたが、このことは伊賀市内における視覚障害者施策の一環として大きな意味を持つものである。視覚に障害のある方々にとって就業の道は狭く、その機会も少ない現状から見ると、三療師資格を有することの意義や、三重県で唯一の研修施設である伊賀市盲人ホームの存在意義は大きく、本年度も次のような事業を行なった。

(1) 利用患者の状況

盲人ホームは運営上の制限があるため、利用患者の増加を図ることには難しい課題もあるが、例年通り利用患者の確保に努めた。今年度も、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けてはいるが、患者数としては前年比の約18%の増加となった。

(2) 公益的な活動

地域の方々への三療の正しい知識の普及と盲人ホームの広報を目的として、鍼療師の資格を持つ健康体操指導者による健康講座を定期的に継続して開催していたが、コロナ禍の影響で本講座も休講を余儀なくされている。今後は、新型コロナウイルス感染予防対策を講じながら、出来る限り早期の開催を目指したい。

(3) 視覚障害者に対する活動その他

盲養護老人ホーム梨ノ木園及び伊賀市視覚障害者福祉会と、様々な交流を通して連携を深めると共に、地域の視覚障害者の活動の拠点としての役割を果たしてきた。今後も継続した活動が続けられるよう、施設の維持管理に努めることとする。

7 かしの木ひろばについて

障害福祉サービスの利用者は65歳に到達すると、介護保険サービスを優先的に利用することになる。また、家族による介護が困難となり、施設入所を望む利用者が増えてきたことから、生活介護の利用者は減少傾向となった。一方、居宅介護支援及び訪問介護支援事業では、介護保険に移行した方への訪問介護支援を引き続き行ない、コロナ禍で外出行事やヘルパーの余暇支援を制限したものの、障害児者の社会参加と生きがいのある生活の実現に向けて事業を展開し、通所と訪問の連携により在宅障害者が安定した生活を過ごせるように支援することができた。また、本年度も、利用者の様々なニーズに対応するため、障害者団体、関係機関、地域住民、家族等の連携を密にすると共に、職員一人ひとりの専門性や技術の向上に努めた。

(1)生活介護事業 定員 20名

障害支援区分3から6(50歳以上は区分2以上)の方を対象として、個々の心身の状況に応じた個別支援計画に基づき、介護サービスの提供と、創作的活動や軽作業及び感覚統合的運動等の日中活動を延べ4,778名に行なった。特に利用者の入浴サービスが多く、事業所から距離のある旧5か町村への送迎を行なった。特性上、密接な関わりが必要な方に対しては、より深い理解を得るため、何度も対応法を協議しながら個別対応し、支援の方法と生活の質を高める取り組みを進め、人工呼吸器等医療支援の必要な利用者も増えてきた、加えて、当事業所が伊賀市より受託している日中一時支援事業において、特別支援学校伊賀つばさ学園高等部の生徒を放課後や長期休暇中に受入れ今後の利用につなげた。

ア 利用者の状況

・年齢構成

サービス	年齢	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳	合計
	19歳	29歳	39歳	49歳	59歳	69歳	
生活介護	0	6	4	12	5	6	33名

・障害別内訳

障害名	男	女	合計
脳性マヒ	3(3)	2(1)	5(4)名
脊損、頸損	0	0	0名
脳血管障害	1	0	1名
脳挫傷(高次脳機能障害)	0	1	1名
視覚・聴覚障害(重複)	1(1)	0	1(1)名
知的障害	7	3	10名
その他	7(3)	8(4)	15(7)名
合計	19(7)	14(5)	33(12)名

※ ()は、知的障害との重複数

・障害支援区分

サービス	障害	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
		生活介護	0	3	2	7	10
生活介護	知的	1	2	2	5	1	11名
合計	合計	1	5	4	12	11	33名

イ 年間利用状況

開設日数	利用者数		利用平均		送迎サービス	
	生活介護	日中一時	生活介護	日中一時	生活介護	日中一時
260日	4,553	187	17.51	0.72	6,206回	24回

ウ 作業賃金の状況

	支払工賃	総作業時間	1時間の賃金
年間	634,203円	1,973時間	
1か月の平均	52,850円	164時間	322円

*作業工賃の単価が倍額になり、賃金も増えた。

エ 外部講師による余暇活動等

- ① 余暇活動の実施状況 お茶の会 1回/月(4回)8月以降は職員で行なう。
- ② 機能訓練等の実施状況 音楽療法 1回/月(7回)

オ 年間行事実施状況

月別	内 容
4月	ドライブ散歩
5月	ドライブ散歩
6月	ボッチャを楽しもう
7月	ボッチャ教室に参加
8月	夏まつり
10月	白鷺公園散歩
11月	ユニバーサリティースポーツに参加
12月	クリスマス会
1月	初詣散歩
2月	節分レク
3月	梅見散歩(ヤマギシ)

(2) 居宅介護支援及び訪問介護支援事業

地域で暮らす障害者や介護保険利用者を対象とし「地域で自分らしく暮らしたい」「コロナ禍でも外出を楽しみたい」という利用者の思いを大切に、家族や多職種と連携を取りながら現在約87世帯を訪問している。新型コロナウイルス感染症の発生状況を確認しながら、感染予防に努め希望に添った外出の支援を行なっている。

主な支援内容

身体介護、通院等介助、家事援助(生活援助)、視覚障害者に対する同行援護、移動支援、保険外サービス、福祉有償運送(通院や外出支援との一元利用により、有効な外出支援の提供)

ア 利用者の状況

年齢構成

対象者	年齢	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳	80歳	90歳	合計
	19歳	29歳	39歳	49歳	59歳	69歳	79歳	89歳		
障害者支援	0	6	11	16	10	12	7	6	2	70
高齢者支援	0	0	0	0	0	5	5	5	2	17名
合計	0	6	11	16	10	17	12	11	4	87名

障害別・介護認定別の状況(重複あり)

障害名・介護認定名	男	女	合計
身体障害者手帳	19	25	44名
療育手帳	9	18	27名
精神福祉手帳	3	2	5名
介護保険(要介護)	3	7	10名
(要支援)	2	5	7名
合計	36	57	93名

イ 年間事業状況

居宅介護

	サービス内容	登録数	訪問回数	訪問時間
利 用 者	身体介護	26	2,565	2,137
	家事援助	4	235	160
	通院(身体介護有)	20	413	429
	通院(身体介護無)	6	28	65
	重度訪問	0	0	0
合 計		56	3,241	2,791

同行援護

	サービス内容	登録数	訪問回数	訪問時間
利 用 者	同行援護	21	347	602.5

行動援護

	サービス内容	登録数	訪問回数	訪問時間
利 用 者	行動援護	1	21	35

地域生活支援

	サービス内容	登録数	訪問回数	訪問時間
利 用 者	移動支援(身体介護有)	23	396	860.5
	移動支援(身体介護無)	12	310	453.5
合 計		35	706	1,314

訪問介護

	サービス内容	登録数	訪問回数	訪問時間
利 用 者	身体介護	3	176	201.5
	生活援助	2	102	101.5
	身体生活	3	298	354.5
	乗降介助	8	506	
	総合事業 現行	0	0	0
	総合事業 緩和	7	441	441
合 計		23	1,523	1,098.5

※ 重複支援あり

ウ 福祉有償運送利用状況

利 用 者 の 内 訳					合 計
身体障害者	要介護認定者	要支援認定者	精神障害者	知的障害者	
2,361件	46件	98件	106件	742件	3,353件

(3) 地域交流事業

コロナ禍ではあったが、福祉実習も再開されてきた。視覚障害者福祉会と地元のいきいきサロンは回数を減らして開催された。更に、寺町いきいきサロンの皆様と交流を深め、プランターの花植えや年末の窓拭き等を共に行なった。

<会議、研修会等の開催状況>

内 容	回数
伊賀市視覚障害者福祉会役員会・弁天祭	2回
寺町いきいきサロン	8回
福祉実習（岡波看護専門学校3年生10名）	5回
（白鳳高校2年生2名・3年生2名）	45回
（あけぼの学園高校2年生1名）	1回
計	61回

(4) 職員の資質向上

職員としての意識向上を図るため、当施設の権利擁護委員会(虐待防止委員会)を年間10回開催した。その中で3か月毎に仕事への心構えや振り返り等スローガンを決め毎朝唱和した。また、強度行動障害(行動援護)支援について、講師を招き勉強会を開催すると共に研修へも積極的に参加し、資格取得に努めた。さらに、有償運送や利用者送迎運転手業務に備え、定期的に交通安全の勉強会を全職員で行なうことで、安全運転の意識の向上に努めた。

8 梨ノ木診療所について

梨ノ木診療所は、診察時間の制約がある中、従前より予防医学の観点から、健康診断・生活習慣病検診や新型コロナウイルスワクチン及びインフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチン接種等を実施することで、地域医療及び施設利用者等の健康管理に努めた。

通所リハビリテーション事業では、在宅機能を保持できるよう個々の利用者に応じたりハビリ訓練をマンツーマンで提供するリハビリテーションを実施した。

平成24年度より地域貢献事業として、理学療法士の指導のもと開催した「なしのき健康講座」はコロナ禍の影響によりその開催が制約され、例年通りの成果を上げることができなかったが、でき得限りの感染対策を施し、地域の皆様に健康意識の向上及び身体機能の保持を目的として健康維持の推進に努めた。

隣接する施設(梨ノ木園、第二梨ノ木園、梨丘園等)を利用する方々には、日々の健康管理のために回診等を定期的に行ない様々な医療相談に対応した。また、施設利用者の終末期においては、ご家族および職員と共に看取り医療を行なった。

(1) 予防医療の充実

ワクチン接種	1,414名(前年 940名)
一般健康診断	300名(前年 315名)

(2) 地域貢献事業

なしのき健康講座	13回	年間参加者数	164名
----------	-----	--------	------

(3) 職員の資質向上

職員としての資質向上を図るため、梨ノ木職員研修会に参加した。

<メモ>